

■ 効率的に意見を述べても、
効率的に捨てられるだけ

修正： 2023.04.01

投稿： 2023.04.01



● 効率的に意見を述べても、効率的に捨てられるだけ①

なぜ私の意見はこんなにも**通らない**のか？

なぜ私の意見はこんなにも**軽視される**のか？

こういった悩みをもっている人は、

きちんと自分の**努力をアピール**していますでしょうか？

努力のアピールと言うと、

「いや、俺は、内容(結果)で評価してほしい！」

と**実力勝負**に持ち込もうとする人が多いのですが、

それが有効なのは、

評価者(相手)に内容(結果)を評価する能力がある場合に限ります。

そうでない場合、つまり、評価者に十分な評価能力がない場合は、

何か意見を述べるにあたってその前に、

試行錯誤した経緯云々(努力)をアピールしなければなりません。

間違っても、いきなり思いついたようにして、

とっさに意見を述べてはいけません。

効率的に意見を述べても、効率的に捨てられるだけです。

と言うのも、そのような思いつきの意見は、

「よく考えていない」という**印象**を与えてしまい、

「あまり試行錯誤されておらず、まだまだ検討の余地がある」

と思われ、**却下されやすい**のです。

だからこそ、どれだけ努力したかを徹底して伝え、

「もう十分に検討した！」ということ

味わってもらわなければなりません。評価者が結果を

評価できない以上は、そういうアプローチになります。

こうした背景ゆえ、職場では、

自慢上手な人ほど高く評価されるのです。

以降、「意見を述べる前に、まずは**苦勞話**をしましょう」
ということで、話を進めたいと思います。

(続)

//=====//

● 効率的に意見を述べても、効率的に捨てられるだけ②

相手に評価してもらうにあたって、

「相手は何が理解できて、何を大事にしているか」

ということは把握しておかなければなりません。

評価する側も人間ですから、心に響く・響かないはあります。

そもそも評価するだけでも**コスト**がかかります。よって、

(評価の)コストパフォーマンスの良い意見ほど受け入れられます。

しかしながら、内容(質)を評価する場合、

どのように評価しようともコストはかかるものであり、

ゆえに、評価は**難航**しがちです。

例えば、新しい商品・サービスを開発するために、

アイデアを出し合っているシーンを想定してみます。

どんな人のアイデアが採用されると思いますか？

良いアイデアを出した人の意見が採用される？

でもその「**良い**」を評価するのって**大変**ですね？

なら**斬新**なアイデアを出した人の意見が採用される？

でもその「**斬新**」には**リスク**も伴われるわけで、

その**リスク**を評価するのもこれまた大変ですよ？

よく「**量より質だ**」と言われていますが、しかし、
「**質**」とは何とも評価が難しいものです。かつ、
質の評価には人の**主観**も大いに入ってきます。

「これは売れる！」と言う人もいれば、
「いや、こんなものは売れない！」と言う人もいます。
仮に、売れる理由をどんなに雄弁に説明されたとしても、
本当に売れるかどうかは、やってみないと分かりません。

これは、後継者選びや人の採用でも同様です。
実際にやらせてみないと本当のところは分かりません。
「**質**」の評価は極めて難しいのです。

(続)

//=====//

● 効率的に意見を述べても、効率的に捨てられるだけ③

「**質**」は評価が**難しい**という話でした。逆に、
「**量**」であれば、評価は非常に**簡単**です。

何しろ「**数を数えればいだけ**」ですから。
誰にでもできます。それに何より、
人の主観が含まれることもありません。
量とは実に**客観的**な評価なのです。

であるなら「**量**」を以て意見をアピールすればいい、
ということにならないでしょうか？

アイデアの良し悪しなど、最初は誰にも分かりません。

今でこそ知らない人はいない「Web」という技術も、

当初は「なんじゃそりや??? (*´3`)」でした。

「良いアイデア」というのは、時間をかけて徐々に
評価されるものです。だからこそ、今すぐ評価されたいなら、
今すぐ評価できる、「量」でアピールしよう、という話です。

例えば、アイデアを出し合うのであれば、
「何のアイデアを出すか」ではなく、そのアイデアを出すまでに
「何個の没アイデアがあるか」をアピールするようにします。
(ちらりと**没リスト**を見せるだけで十分です)

Aさんの「あああ」というアイデアと、
Bさんの「いいい」というアイデアと、
Cさんの「うろう」というアイデアがあったとき、

Aさんには自信があり、Bさんには理論があり、
Cさんには「**100個の没アイデアがある**」となれば、
さて、誰のアイデアが採用されるでしょうか？

アイデアの良し悪しなど誰にも分かりません。
いくら論理的に説明されても良し悪しは判断できません。
そういう背景も踏まえ、さて、
誰のアイデアが採用されるでしょうか。

(続)

//=====//

● 効率的に意見を述べても、効率的に捨てられるだけ④

人に自分の意見やアイデアを評価してもらいたいときは、
「量より質」より「質より量」を意識した方がいいですよ、
ということで、3回にわたって述べてまいりました。

なぜなら、意見やアイデアを評価する人には、
その良し悪しを評価する能力などおそらく無いからです。
と言うより、そもそも評価は難しいものなのです。

オランダの画家のフィンセント・ファン・ゴッホは、
今でこそ著名な画家ですが、生前は
まったくと言っていいほど絵が売れなかったことで有名です。

つまり、いくら素晴らしい意見やアイデアを述べたとしても、
それはたかが「1個」の意見やアイデアとして扱われるのです。
そこに質という「重み」は考慮されません(できません)。

「努力(量)より結果(質)だ！」と言っている人たちは、
こういった点で大きく損をしている可能性があります。
全知全能でもない人間が評価する以上、評価も不完全なのです。

そこを勘違いして、
「教師はえこひいきだ！」とか、
「上司は俺のどこを見ているんだ！」とか、
「民衆には見る目がない！」とか、
嘆いても仕方ありません。

あのゴッホですら評価されなかったのだから、
自分の意見やアイデアが評価されなかったとしても、
まったく不思議なことではないのです。
そもそも質の評価は難しいのだから仕方ありません。

だからこそ、評価の難しい「質」で勝負することは避け、
誰でも簡単に評価できる「量」で勝負すべきではないでしょうか？

「質」の勝負はその後でもできることです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)